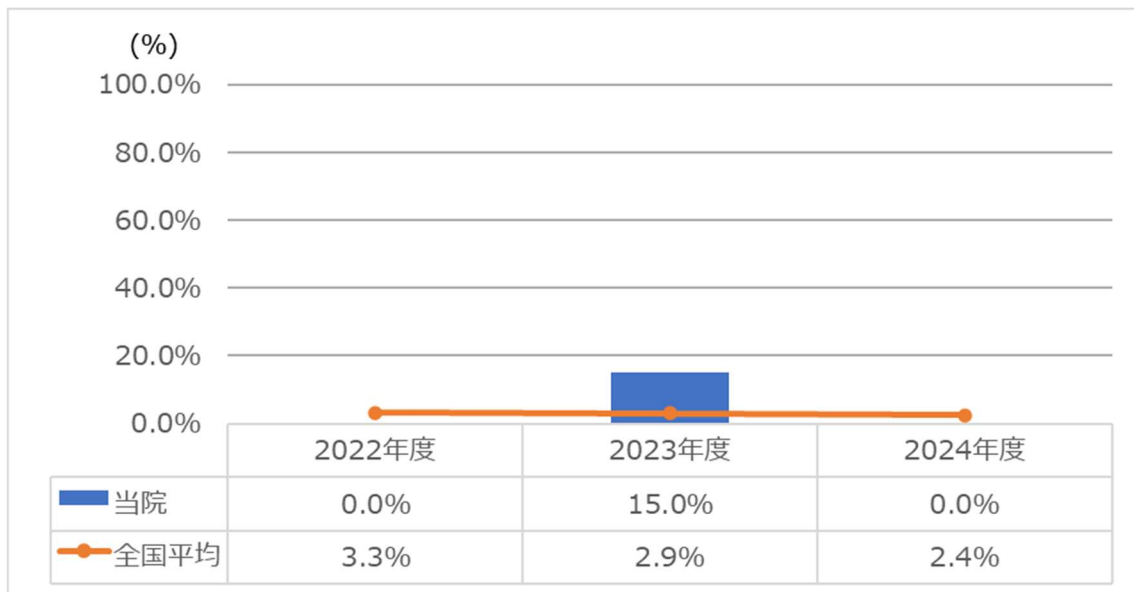


指標3 喘息入院患者における退院後 30 日間以内の同一施設再入院割合



< 定義 >

分子	：	分母のうち、退院後 30 日間以内に喘息に関連した原因で再入院した症例数
分母	：	喘息に関連した原因による 5 歳以上の入院症例数
期間	：	2022 年度～2024 年度(1年毎に集計)
対象	：	上記期間の退院患者

< 解説 >

喘息は、慢性的な炎症をきたした気管支が収縮、狭窄し、発作をきたす疾患です。慢性期の治療では、気管支の炎症を抑えるために、ステロイド薬などを使用します。風邪などを契機に発作が発生すると、呼吸困難、低酸素の状態となります。発作が重篤な場合には、酸素療法、薬物療法のために入院療養を必要とすることもあります。

治療が奏功しないこともあり、経過によっては死亡する症例、喘息死もありえます。喘息発作の予防には普段の気管支炎症の抑制が重要であり、患者の自己判断で治療を終了しない事が重要です。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院 QIP 事業】」における「医療の質の指標」の計測結果(事業に参加する全国の病院の平均値)を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>(当院の QIP 参加について)

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/acts.html> (QIP における計測結果)